パリ・オペラ座バレエ団

Ballet de l'Opéra national de Paris

日本公演 2013

Directrice de la danse Brigitte Lefèvre

OPÉRA NATIONAL DE PARIS

キャスト決定!!

バレエの殿堂、3年ぶりに!
総勢120名、一挙来日!!

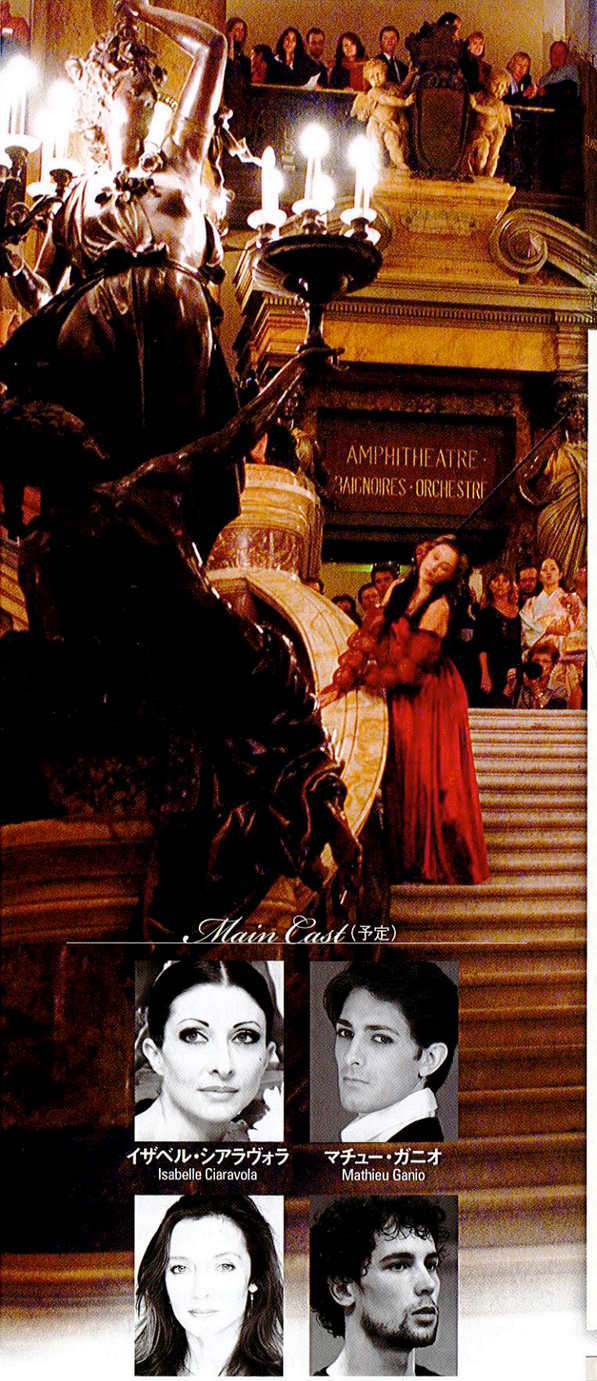
［日本初演］

天井桟敷の人々

Les enfants du Paradis

振付：ジョゼ・マルティネス

©Hidemi Seto ©Jean-Pierre Delagarde



©Jean-Pierre Delagarde

時代をリードし続ける パリ・オペラ座バレエの歴史と今

古典から最先端の現代作品まで幅広いレパートリーを誇り、常に時代の先頭を走り続けるパリ・オペラ座バレエ団。

その歴史は太陽王ルイ14世の時代まで遡る。バレエ愛好家であるだけにとどまらず、自らも舞台に立った王は、バレエを国家的な芸術として庇護し、パリ・オペラ座の前進となる王立音楽アカデミー、さらには舞踊学校を設立させた。王侯貴族、すなわちアマチュアダンサーが楽しむものだったバレエは、アカデミックな訓練を受けた職業ダンサーによるプロフェッショナルなものへと変貌していく。バレエ・ダンサーという新しい職業は、パリ・オペラ座で誕生したのだ。

以来、パリ・オペラ座はバレエ界をリードする存在であり続けてきた。19世紀に大ブームを巻き起こしたロマンティック・バレエが次々と生み出されたのもオペラ座だった。20世紀後半にはローラン・プティ、モーリス・ベジャールといった革新的な振付家を起用、コンテンポラリー・ダンスと呼ばれる枠にとらわれない新しい作品にもいち早く門戸を開いた。常にバレエ芸術の領域を拡大し、新しい作品の創造を続けているバレエ・カンパニー、それがパリ・オペラ座なのである。

現在、パリ・オペラ座は150人を超えるダンサーを擁し、ガルニエ宮、そして1989年に落成した新しい劇場オペラ・バスティーユ、この二つの劇場をホームとする巨大カンパニーとして、バレエ界の先頭を走り続けている。バレエ学校時代から厳しい競争を勝ち抜いてきた精鋭ダンサーたちは、厳しい階級制度の中、日々自分を高め、その身体能力・表現力に磨きをかけているのだ。

頂点に立つエトワールは現在17名、カリスマ的な魅力でカンパニーをリードするニコラ・ル・リッシュ、20歳でエトワールに昇進、今や中心的ダンサーにまで成長したマチュー・ガニオ、技巧派のマチアス・エイマン、フランス派のエレガンスを体現するアニエス・ルテステュ、円熟期を迎えさらに花開くオレリー・デュポン、艶やかなイザベル・シアラヴォラら個性豊かな顔ぶれが活躍している。

新作にも積極的に取り組み、古典バレエと現代作品を両輪とするレパートリーはますます拡充されている。近年の特徴の一つがダンサーへの委託作品の上演。「今」のバレエをその身体で経験しているダンサーたちが振付を行うことで、バレエ表現そのものを広げていこうというわけだ。2008年初演の『天井桟敷の人々』も、当時現役エトワール・ダンサーだったジョゼ・マルティネスの振付によるもの。この作品を通じて、私たちは現在のバレエ表現の多様性に出会うことになるだろう。

（守山実花・舞踊評論家）

Main Cast（予定）

イザベル・シアラヴォラ
Isabelle Ciaravola

マチュー・ガニオ
Mathieu Ganio

アニエス・ルテステュ
Agnès Letestu

ステファン・ビュリオン
Stéphane Bullion

日時	5/30(木)19:00	5/31(金)18:30	6/1(土)13:00	6/1(土)18:00
料金(税込)	S席¥25,000/A席¥18,000/B席¥13,000/C席¥8,000			
バチスト	マチュー・ガニオ	ステファン・ビュリオン	マチュー・ガニオ	ステファン・ビュリオン
ガランス	イザベル・シアラヴォラ	アニエス・ルテステュ	イザベル・シアラヴォラ	アニエス・ルテステュ

管弦楽：シアター オーケストラ トーキョー

パリ・オペラ座バレエ団 日本公演2013「天井桟敷の人々」

〈東京公演〉東京文化会館 大ホール

2013年 5月30日(木)19:00開演 31日(金)18:30開演
6月 1日(土)13:00開演 1日(土)18:00開演

管弦楽：シアター オーケストラ トーキョー
S席¥25,000/A席¥18,000/B席¥13,000/C席¥8,000(税込)
〈お問い合わせ〉チケットスペース 03-3234-9999

〈名古屋公演〉愛知県芸術劇場大ホール

2013年5月25日(土)18:30/26日(日)13:00
〈お問い合わせ〉中日新聞コンサートデスク052-320-9191

〈ご予約・お問い合わせ〉

チケットスペース 03-3234-9999 http://ints.co.jp/

〈チケット取扱〉チケットスペース 03-3234-9999 チケットスペースオンライン 検索 (PCのみ)
TBSオンラインチケット http://www.tbs.co.jp/event/
チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード：421-551] http://pia.jp/t/ イープラス http://eplus.jp/ (PC&携帯)
ローソンチケット 0570-084-003 [Lコード：34825] 0570-000-407 http://l-tike.com/
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

[公式HP] http://parisopera.jp/

主催：TBS/東京新聞

◎病気・怪我等、やむを得ない事情により出演者は変更となる場合があります。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。◎公演中止の場合を除き、実施するすべての公演に関して、主演者をはじめとするキャスト変更に伴うチケット代金の払い戻し、公演日や券種の変更はお受けできません。◎公演中止の場合の旅費、チケット送料等の補償はいたしかねます。◎未就学児童の入場はご遠慮ください。なお、ご入場には1人1枚のチケットが必要です。◎演出上開演後の入場は制限させていただく場合があります。◎館内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。◎ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。

©Michel Lidvac ©Sébastien Mathé ©Julien Benhamou ©ND ©Anne Deniau ©Jean-Pierre Delagarde ©Benjamin Chelly

パリ・オペラ座が贈る切なくも美しい愛の最高傑作、ついに日本初演！

2008年、当時パリ・オペラ座のエトワールであったジョゼ・マルティネスの振付により初演された傑作バレエ『天井桟敷の人々』が、ついに待望の日本上陸へ！
19世紀前半のパリを舞台に描かれる、犯罪大通りに集う人々の猥雑なエネルギー、天井桟敷まで客が埋め尽くす芝居小屋の賑わい、そして美貌の女芸人ガランスとそれを取り巻く男たちの間で交差する愛、嫉妬、憎しみ……。
フランス映画史上不朽の名作として名高い同名映画の魅力はそのままに、クラシックと現代的ムーブメントを巧みに取り入れたマルティネスの雄弁な振付や、同団を代表するエトワール、アニエス・ルテステュによる鮮やかな衣裳が彩る舞台はまさに現在のオペラ座の総力を結集した、最高級のバレエ芸術の結晶。
総勢120名がガルニエ宮から運んでくる、このドラマティックな舞踊絵巻は見逃せない！

音楽：マルク・オリヴィエ・デュパン
Musique : Marc-Olivier Dupin
振付：ジョゼ・マルティネス
Chorégraphie : José Martinez
翻案：ジョゼ・マルティネス、フランソワ・ルシヨン
Adaptation : François Roussillon et José Martinez
美術：エツィオ・トフォルッティ
Décors : Ezio Toffolutti
衣裝：アニエス・ルテステュ
Costumes : Agnès Letestu
照明：アンドレ・ディオ
Lumières : André Diot

Les enfants du Paradis

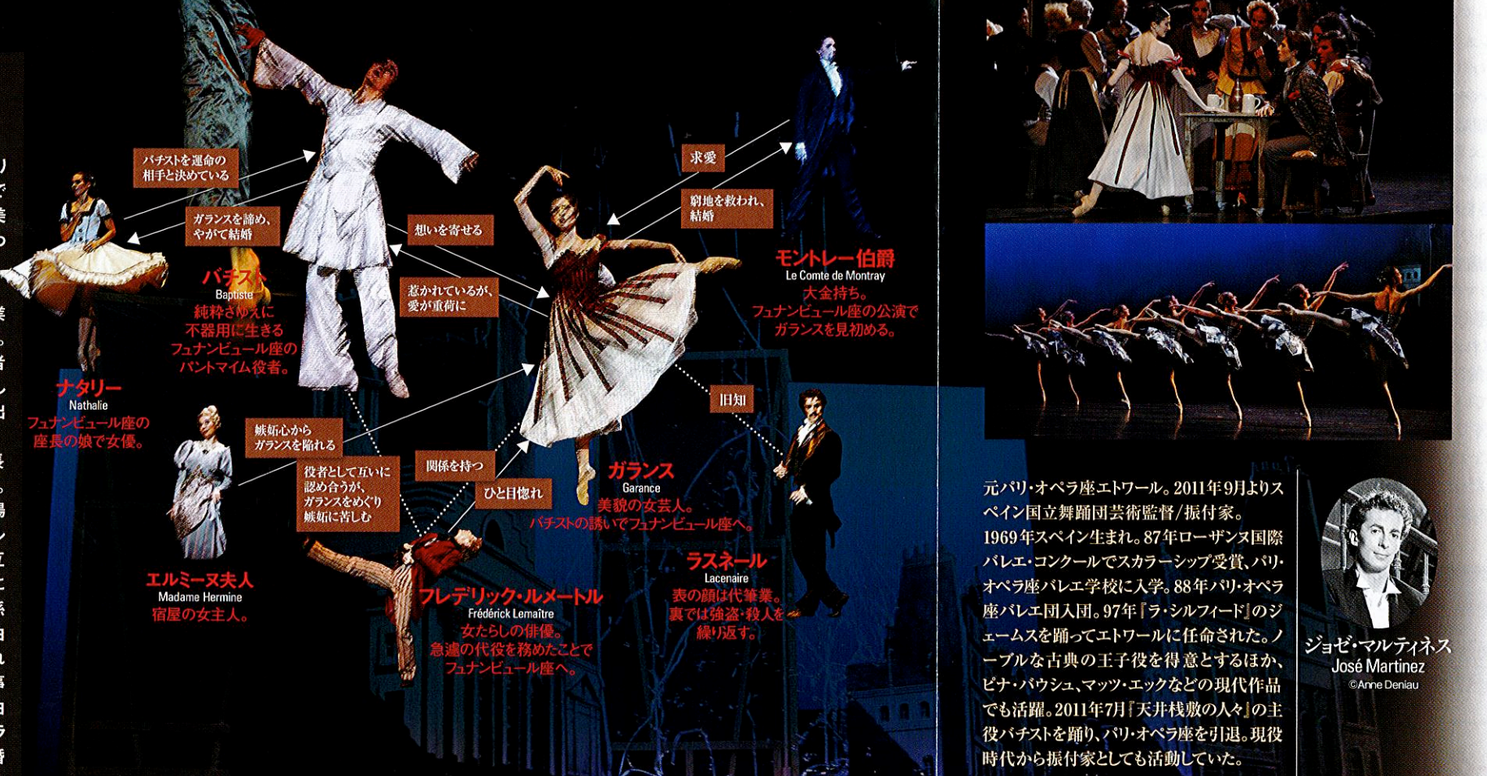
Ballet de l'Opéra national de Paris *Directrice de la danse Brigitte Lefèvre*

Synopsis
〈あらすじ〉

舞台は1830年代のパリ。タンプル大通り（通称・犯罪大通り）は今日も大勢の人々で賑わっている。女たらしの役者ルメートルは美貌のガランスにひと目惚れするが、軽くあしらわれる。ガランスが友人で悪漢のラスネールと余興を楽しんでいると、紳士が懐中時計を盗まれたと騒ぎ出す。実はラスネールの仕業なのだが、濡れ衣を着せられたのはガランス。だが、フュナンビュール座のパントマイム役者バチストが、盗難の一部始終をマイムで再現してみせたことで、彼女の疑いは晴れる。この出逢いでガランスの虜となるバチスト。

そんなバチストは、自分に恋をしている座長の娘ナタリーの想いに応えることができない。

バチストはルメートルと共に出掛けた酒場でガランスと再会、ガランスもフュナンビュール座に加わることになる。ガランスとバチストは互いに惹かれ合うものの、バチストの純粋な愛に背を向けるようにガランスはルメートルと関係を持つ。一方、ガランスを見初めたモントレー伯爵は財力で彼女を口説くが、あえなく拒否される。ところがその直後、宿屋で起こった強盗事件の嫌疑をかけられたガランスは、やむなく伯爵に助けを求めることに。そして数年後、ガランスは伯爵夫人に、バチストはナタリーと結婚して息子を持つ身となっていたが…。



フランス映画史に燦然と輝く名作がグランド・バレエに！

なんと無謀な、でもなんと蠱惑的な企みなのだろう！パリ・オペラ座バレエ団が、フランスのみならず、世界中の「映画史に輝く作品は何？」といったアンケートに、『市民ケーン』や『風と共に去りぬ』などと並んで必ずNO.1の座を争う不朽の名画『天井桟敷の人々』をバレエにする、と聞いた時の当方の反応だ。「無謀」というのは、この映画を基にしたストレート・プレイやTVシリーズ等の成功例を耳にしたことすらないのに、果たして物語全編を紡ぐグランド・バレエとして成り立つのか、という思い。そして逆に、本能的に「蠱惑的」と感じたのは、映画では若き日のジャン＝ルイ・バローが演じたパントマイム役者バチストの動きや、同じくアルレッティ扮する美しい女芸人ガランスとのラブシーンが、バレエとして新しく生み出されたら、どんなにわくわくするだろうという当然の期待からだ。

そもそも、3Dはおろか、カラーでもない、しかも自由に物作りもできない第二次世界大戦ドイツ占領下のフランスという困難な時代に、どうしてこんな大傑作映画が生まれたのか？もちろん名曲「枯葉」などで知られるジャック・プレヴェールの脚本が素晴らしいことが真っ先に挙げられるが、1830年代のパリを背景に、多くの観客を集めた芝居小屋や「犯罪大通り」と呼ばれる猥雑な通りに集まる人間たちの愛や友情、嫉妬、憎しみといった感情が、名優たちの演技で鮮やかにスクリーンに刻み込まれたからに違いない。登場人物が、先に触れたパントマイム役者だったり、美男俳優だったり、芝居小屋の座長の娘というのも、出演俳優たちがなおさら感情移入しやすかったはずだし。

一方、バレエ版の『天井桟敷の人々』は……まず、何人のダンサーが舞台に乗っているのか、容易に数えることもできない犯罪大通りの描写にブラヴォーである。ここでは、バレエ作品に往々にしてありがちな群舞というひと括りは見当たらず、うさん臭かったり、過度にエネルギッシュだったりする人間も含め、皆懸命に19世紀のパリを生きている。演出・振付のジョゼ・マルティネスは以前インタビューで『『ジゼル』の第1幕、村の人々も一人ひとり個性的に描きたいんだ』と語っていたくらいで、この群衆は、唐突な例えながらブリューゲルの生活感あふれる絵画のよう。それでいて、映画版の白黒画面にも負けない独特のトーンの色使いで全体が表現されているのは、もちろん「子供の頃から衣裳のデザインが大好きだった」というアニエス・ルテステュの手腕の確かさだ。自らもダンサーとして、どんな色、素材、シェイプが最も美しく見えるか知り尽くしている彼女の衣裳を着けたパリ・オペラ座バレエ団のダンサーたちの素晴らしさは、バチストとガランスのパ・ド・ドゥや各キャラクターのソロにも存分に表れ、映画とはまた違った意味で感情を揺り動かされること必至。そうそう、筆者が観た2011年の舞台ではマチュー・ガニオが踊っていたバチストのパントマイム。予定調和的な型だけではない、心の内から滲み出るムーブメントとして、これからのバレエ作品のマイムにも影響を与えそうだ。

（佐藤友紀・ジャーナリスト）

ジョゼ・マルティネス
José Martinez
©Anne Deniau

元パリ・オペラ座エトワール。2011年9月よりスペイン国立舞踊団芸術監督/振付家。1969年スペイン生まれ。87年ローザンヌ国際バレエ・コンクールでスカラーシップ受賞、パリ・オペラ座バレエ学校に入学。88年パリ・オペラ座バレエ団入団。97年『ラ・シルフィード』のジェームスを踊ってエトワールに任命された。ノーブルな古典の王子役を得意とするほか、ピナ・バウシュ、マッツ・エックなどの現代作品でも活躍。2011年7月『天井桟敷の人々』の主役バチストを踊り、パリ・オペラ座を引退。現役時代から振付家としても活動していた。

映画『天井桟敷の人々』より

©Sébastien Mathé ©Anne Deniau ©Hidemi Seto